

# 施設栽培事例

## 乳酸菌適用

---

株式会社M's JAPAN WEST

# ◆ 【アスパラガス事例1】

品種: さぬきのめざめ 栽培面積6反



香川県東かがわ市でアスパラガス(さぬきのめざめ)を栽培されている農家さんです。

2月から定期的に灌水で複合乳酸菌を流していただいております、病気もなくいいコンディションですくすくとアスパラが育っています。

水の貯水タンクに複合乳酸菌を混合して、灌水で流していただいております。反あたりに5~7L程度の複合乳酸菌が流れるペースで週に1回分量を分けて灌水しています。



8トンの貯水タンクに7トンの水がたまっており、その中に毎週7Lずつ複合乳酸菌を流し込みしています。

次シーズンからアスパラガス以外にもトマトの水耕栽培でも乳酸菌を流していただく予定です。

＜栽培品目＞

アスパラ6反、トマト2反8畝、米20町、WCS12町、他ブロッコリー5町など露地栽培

## ◆【アスパラガス事例2】

品種:さめきのめざめ 栽培面積5反5畝



香川県綾歌郡綾川町でアスパラガス(さめきのめざめ)を栽培されている農家さんです。

ブロッコリーで複合乳酸菌を使用し、非常にいい結果が出たので、3月からアスパラガスに定期的に複合乳酸菌を灌水していただき、病気もなくいいコンディションですくすくとアスパラが育っています。

水の貯水タンクに複合乳酸菌を混合して、灌水で流していただいています。

複合乳酸菌灌水量は2カ月に1回ぐらいのペースで10L程度タイミングを見計らって8トンの貯水タンクに複合乳酸菌を流し込みしています。

水は地下水を組み上げており、2つのフィルターを通して8トンの貯水タンクにたまる仕組みになっています。



<栽培品目>

アスパラ5反5畝、ブロッコリー12町、キャベツ3町、青ネギ10町、米20町、小麦20町

# ◆【イチゴ事例1】

品種：さぬき姫 栽培面積5反5畝



香川県高松市でイチゴ(さぬき姫)を栽培されている農家さんです。

2月頃訪問した際には、暖房機の近くでうどんこ病が出ており、その場所を中心に周りに病気が広がりつつある状況でした。

観光農園であまり農薬を使うことができないとのことで、うどんこ病の広がりを抑えるため複合乳酸菌を定期的に灌水していただきます。灌水量は月に6~7L/反の複合乳酸菌が流れるように分量を分けて灌水チューブで灌水。

現在はうどんこ病の広がりもほぼ止まり、美味しいイチゴがどんどん実っています。

イチゴのシーズンのあとは、ミニトマトの栽培で複合乳酸菌を使用していただく予定です。

<栽培品目>

イチゴ、ミニトマト、青ネギなど

## ◆【イチゴ事例2】

品種：さぬき姫 栽培面積1反5畝



香川県さぬき市でイチゴ(さぬき姫)を栽培されている農家さんです。

今年はどうんこ病の発生がひどく、スモークーを焚いていましたが、ちらほらとうどんこ病が出てしまっている状態でした。

複合乳酸菌を50倍希釈で葉面散布と、灌水チューブで定期灌水していただいています。現在はうどんこ病の広がりもほぼ止まり、葉っぱも青々と元気を取り戻してきました。



花粉交配はハチを使用されていますが、複合乳酸菌は動植物に影響がないため、安心して葉面散布できることも1つのメリットです。

<栽培品目>  
イチゴ

## ◆ 【イチゴ事例3】

品種：さぬき姫 栽培面積1反6畝



香川県高松市でイチゴ(さぬき姫)を栽培されている農家さんです。

水耕栽培と土耕栽培の設備で栽培区を分けて栽培されています。

水耕栽培ではピシウム菌が回り苗が大きく育たず、土耕栽培では炭疽病に悩まされていました。

複合乳酸菌を灌水チューブで灌水していただくようになってからは、水耕の苗も元気を少しずつ取り戻し、炭疽病の広がりも止まったというお声をいただきました。

花粉交配ではめずらしいハエを使用されています。

イチゴのシーズンが終わり、現在はミニトマト(TY千果)の水耕栽培(NFT)で複合乳酸菌を使用しています。

<栽培品目>

イチゴ、大玉トマト、ミニトマト

# ◆ 【イチゴ事例4】 品種：桃薫、白イチゴ



香川県高松市でイチゴ(桃薫、白イチゴ)を栽培されている農家さんです。

育苗から収穫までの間、虫害に対する天敵農薬以外は、農薬不使用で育てています。

肥料は9/7(14-14-14)、10/31(8-8-8)、12/36(8-8-8)の3回施肥し、農薬は12/5マラソン2000倍  
12/20スミチオン1000倍で実施。

ほとんど農薬を使用しないイチゴ栽培は非常にめずらしく青果市場やJA職員さんが見学にくるほどです。



複合乳酸菌100倍希釈とアサヒビール酵母資材を月に3回程度葉面散布しています。

<栽培品目>

イチゴ(桃薫、白イチゴ)、フィンガーライムなど

## ◆ 【イチゴ事例5】

品種:さめき姫 栽培面積2反5畝



香川県観音寺市でイチゴ(さめき姫)を栽培されている農家さんです。

梅雨入り前のシーズン、うどんこ病の発生が怖いとのことで複合乳酸菌とアサヒビール酵母資材を灌水チューブで定期灌水しています。

複合乳酸菌の灌水量は月に5~7L/反 原液量が流れるように分量を分けて灌水。

病気も出ず、収穫も調子がいいので6月中旬ごろまで収穫をするとのことでした。



<栽培品目>  
イチゴ

# ◆【イチゴ事例6】

## 品種：紅ほっぺ 栽培面積1反5畝



愛媛県大洲市でイチゴ(紅ほっぺ)を栽培されている農家さんです。

1.5反のハウスに週に1回複合乳酸菌を4Lずつ灌水チューブで流してもらっています。液肥を流す時は液肥と混合で灌水しています。

複合乳酸菌を流して1カ月で着花がよくなり、大きい花がたくさん咲きました。成長も良くなり、大きい実が付き出したとのこと。イチゴの味も美味しくなったというお声をいただきました。

<栽培品目>  
イチゴ、ミニトマト



# ◆【イチゴ事例7】

品種：赤いしずく 栽培面積1反5畝



愛媛県西予市でイチゴ(赤いしずく)を栽培されている農家さんです。

もともと灰カビ病に悩まされていましたが、複合乳酸菌を灌水チューブで定期灌水するようになってからは灰カビ病の広がりが止まったというご連絡をいただきました。

天候不順が続いた時は多少病気が出たりしていたそうですが、2月の強風でハウスの屋根が飛ばされて灰カビ病が萬栄。



緊急措置で複合乳酸菌50倍希釈を1週間に1回のペースで葉面散布しました。葉面散布するようになって、灰カビ病が止まるだけでなく、成長が早くなり着花が早くなったとのこと。葉っぱも元気になり実の大きさも普段より大きく成長しているとご連絡をいただきました。

<栽培品目>  
イチゴ

# ◆【イチゴ事例8】 品種：紅ほっぺ



静岡県でイチゴ(紅ほっぺ)を栽培されている農家さんです。

親株定植時から複合乳酸菌を散布していただいております、根張りが良くなりランナーが太くなったとのこと。

散布時にボトキラー水和剤(バチルス・ズブチリス芽胞)との併用で灰色カビ病・うどん粉病の抑制がさらに期待できる。複合乳酸菌は葉ダニ剤(殺虫剤)との併用が可能。



葉面散布の時間と手間を省くために、加湿器を利用して複合乳酸菌を噴霧しています。

ハウス内を加湿器で高湿度にすることによって葉ダニの抑制が期待できるのと、イチゴの実が膨らんで収量がアップするとのこと。

<栽培品目>  
イチゴ

# ◆【トマト事例1】

## 品種：シュガープラム 栽培面積8畝



香川県観音寺市でミニトマト(シュガープラム)を栽培されている農家さんです。

8月定植時期から複合乳酸菌をドリップで点滴灌水。例年よりも樹勢が良くなり、毎年10月～11月ごろに出ていた灰カビ病が今年は出ませんでした。

去年は灰カビ病が出て農薬散布をしてもなかなか改善せず悩まされていただけに、今年の変化に驚きを隠せない様子でした。

定期灌水に併せて、土佐農機さんのモーターフォグという噴霧器で複合乳酸菌を噴霧しています。

ホルモン剤は一切使用しないこだわりの作り方をされていて、農薬を使用しなかったことで資材にかけるコストも良くなり複合乳酸菌の確かな効果を実感されていました。

農薬を使用しないことで、トマトの味も美味しくなったというお声もいただきました。



<栽培品目>

ミニトマト、アスパラガス

# ◆【トマト事例2】 品種：シュガープラム 栽培面積7畝



香川県観音寺市でミニトマト(シュガープラム)を栽培されている農家さんです。

3月の苗の段階から複合乳酸菌をドリップで点滴灌水。例年よりも根張りがよく、成長もいい。

苗会社の方がハウスの様子を見に来られたそうですが、同じ品種を栽培している周辺のトマト農家さんに比べて茎が太く実なりもいいので、非常にいい状態で育っているとのこと。

乳酸菌灌水量は3月20L、4月以降毎月10Lのペースで流し込み。昨年と比べて収穫量が2倍以上になっているとのこと、収穫が間に合わないぐらい忙しいと嬉しい悲鳴をあげられていました。

複合乳酸菌を定期灌水してもらい、病気への免疫力をつけて健康な状態を保っています。

<栽培品目>  
ミニトマト

# ◆【トマト事例3】

品種：CF千果 栽培面積1町



香川県さぬき市でミニトマト（CF千果）を栽培されている農家さんです。

有機肥料や藁や蟹殻などを混ぜた土で土耕栽培している。もともと水耕栽培をしていた時期もあり、水耕栽培の方が管理は楽だが土耕栽培の方がトマトの味に深みが出るということで、父の代からのこだわりの作り方をしている。土での栽培は水耕栽培より管理が難しく、目で作物の状態を見て水やりをしているので自動化してません。



発酵液肥と複合乳酸菌を混合で3日に1回のペースで点滴チューブで灌水しています。複合乳酸菌の灌水量は月に4～5L/反 原液量が流れるように分量を分けて灌水。

実なりが良くなっているというお声をいただいています。

<栽培品目>

ミニトマト、玉ねぎ、ブロッコリー、キャベツ、オクラなど

## ◆ 【トマト事例4】

品種：フルティカ、レッドオーレ 栽培面積2反2畝



香川県高松市で中玉トマト(フルティカ、レッドオーレ)を栽培されている農家さんです。

3月中旬ごろから複合乳酸菌を使用。複合乳酸菌の灌水量は月に6~8L/反 原液量が流れるように分量を分けて灌水。

地下水を組み上げる方式の灌水設備で灌水用液肥混入器で複合乳酸菌を混入し灌水していただいています。

葉面散布はESSという霧状に噴霧する機械で、魚エキスの液肥と複合乳酸菌と一緒に5日に1回葉面散布。1回の散布量は2反2畝で2.5L(原液)噴霧してもらっています。

使用して2週間でトマトの味が美味しくなったというお声をいただきました。

<栽培品目>  
中玉トマト

## ◆【トマト事例5】

品種：CF千果、TY千果 栽培面積1反



香川県高松市でミニトマト(CF千果、TY千果)を栽培されている農家さんです。

NFT方式の水耕栽培でトマトを栽培されており、1反の面積の圃場で週に2Lずつ複合乳酸菌を灌水、葉面散布は週に1回していただいています。

1月定植、4月定植、7月定植と時期をずらして区画ごとに栽培されていますが、複合乳酸菌の定期灌水により、今のところほとんど病気もなく生育も順調です。



弊社の複合乳酸菌に含まれている乳酸菌は通性嫌気性菌で酸素があってもなくても生育できますので、水耕栽培でも有効活用いただけます。

<栽培品目>

ミニトマト

# ◆【キュウリ事例1】

品種：常翔661 栽培面積2反4畝



香川県高松市でキュウリ(常翔661)を栽培されている農家さんです。毎年同じ圃場でキュウリを栽培するため、土壌には有機肥料をふんだんに入れ、土づくりには力を入れています。

定植前の土づくりで複合乳酸菌を2L/反 水に希釈して灌注。

定植後は複合乳酸菌を定期的に灌水チューブで灌水しています。複合乳酸菌の灌水量は月に10L程度/反 原液量が流れるように分量を分けて灌水。

根圏のコンディションが良いので、うどん粉病やべと病などの病気もでないため、減農薬で栽培ができています。成り疲れもなくみずみずしいキュウリがたくさん収穫できています。

<栽培品目>  
キュウリ、カブ、ホウレンソウ、米など

## ◆【キュウリ事例2】

品種：フェニックス 栽培面積2反



香川県高松市でキュウリを栽培されている農家さんです。  
キュウリやブロッコリーなど農薬を使わない栽培方法でこだわりをもって栽培されています。

定植前の土づくりで複合乳酸菌を2L/反 水に希釈して灌注。

定植後は液肥混合器を使用し、複合乳酸菌を定期的に灌水チューブで灌水しています。複合乳酸菌の灌水量は月に6~8L/反 原液量が流れるように分量を分けて灌水。



慣行栽培区  
の病気の症状

複合乳酸菌適用区と慣行栽培区と1反ずつハウスを分けて比較していますが、慣行栽培区のハウスは赤サビ病と思われる症状が全体に出てしまっていました。複合乳酸菌を使用しているハウスでは病気は出ておらず、明らかな差が現れています。

<栽培品目>

キュウリ、トマト、トウモロコシ、ブロッコリー、大根など